

鷹取山自然観察会会報

2021. 3. 14 NO. 31

鷹取山蝶類について — 2020年調査 —

2020年4月から11月までの8か月間に行った蝶類調査の結果を報告します。2014年6月に会員により月1度の蝶類調査を始めてから7年目になります。蝶は種ごとに違った食草をもち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。

これまでの調査結果については、2014年の結果は会報7号、2015年の結果は会報11号、2016年の結果は会報15号、2017年の結果は会報19号、2018年の結果は会報23号、2019年の結果は会報27号に掲載されています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため、暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館の報告書(横須賀市博物館研究報告(自然科学)第60号)によれば、三浦半島では84種の蝶が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は34種、近年減少または絶滅に迫いやられている減少種は27種、温暖化などで増加傾向にある増加種は7種、単発的に記録される偶産種は8種、外来種は8種となっています。

2020年の蝶類調査は、引き続き環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して行いました。調査結果は国の方にも報告し、全国状況の把握に資することになります。

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って、4月から毎月2回行いました。調査ルートは植物相調査のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました(会報12号植物相調査ルート(図1と表1)を参照)。調査頻度は月2度、原則として第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など同定が難しい種については捕虫網で捕獲し、図鑑により確認し、記録しました。

2. 調査結果

今回は、15回のチョウ類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2020年は38種が記録できました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木が多く、ここではヒカゲチョウの仲間やジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。E区間は杉林の林縁であり、ヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られました。F区間は畑地もある場所で、モンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。

2020年には、2016年以来となるイチモンジチョウが記録でき、また、2017年以来となるツマキチョウも記録できました。キアゲハ、ゴマ



イチモンジチョウ 2020/9/4 鷹取山E区間

ダラチョウも記録できました。一方、2020 年に記録できなかった蝶は、オナガアゲハ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミ、ムラサキツバメ、

ジャノメチョウ、クロコノマチョウ、コチャバネセセリ、ヒオドシチョウ、ヒメアカタテハ、アサギマダラの 12 種でした。7 年間の合計では、50 種が記録されたことになります。

鷹取山の年別記録数

(調査頻度 2014～2015 年：月 1 回 2016～2020 年：月 2 回)

	科・亜科	種名	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎	●	◎	◎	●
2		オナガアゲハ	△	△	×	△	△	×	×
3		カラスアゲハ	△	▼	▼	●	◎	◎	◎
4		キアゲハ	△	×	△	△	△	×	△
5		クロアゲハ	▼	△	●	▼	○	○	○
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	◎
7		ナガサキアゲハ	△	×	△	▼	▼	▼	△
8		ナミアゲハ	▼	▼	○	○	○	○	●
9		モンキアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	●
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△	△	△	×	×
11		ウラギンシジミ	△	▼	○	○	◎	○	▼
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×	△	×	×	×
13		オオミドリシジミ	×	△	△	△	△	×	×
14		ツバメシジミ	△	○	○	○	◎	●	●
15		ベニシジミ	△	○	◎	◎	◎	◎	◎
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×	×	×	×	×
17		ムラサキシジミ	×	△	▼	▼	○	▼	○
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●	●	●	●	●
19		ルリシジミ	○	▼	○	○	●	●	◎
20		ウラナミシジミ	×	×	◎	◎	◎	●	◎
21		ムラサキツバメ	×	×	×	×	×	△	×
22	ジャノメチョウ亜科	コジャノメ	△	◎	○	○	○	◎	○
23		サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎	◎	○	●	◎
24		ジャノメチョウ	×	△	▼	▼	△	×	×
25		ヒカゲチョウ	▼	▼	○	○	○	◎	○
26		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●	●	●	●	●
27		ヒメジャノメ	△	▼	◎	◎	▼	▼	○
28		クロコノマチョウ	×	×	△	△	×	△	×
29	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎	◎	○	●	●
30		スジグロシロチョウ	△	△	▼	▼	◎	▼	▼
31		モンキチョウ	△	△	○	○	○	▼	▼
32		モンシロチョウ	▼	▼	●	●	◎	◎	●
33		ツマキチョウ	×	×	△	△	×	×	△
34	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○	○	●	○	◎
35		ダイミョウセセリ	▼	▼	○	○	○	◎	○
36		チャバネセセリ	×	△	○	▼	○	▼	△
37		キマダラセセリ	×	×	▼	▼	△	△	▼
38		コチャバネセセリ	×	×	×	△	×	×	×
39	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼	○	▼	▼	△
40		アカボシゴマダラ	▼	△	○	◎	○	○	○
41		イチモンジチョウ	×	△	△	×	×	×	△
42		コムシジ	▼	▼	○	◎	○	▼	○
43		ツマグロヒョウモン	○	○	●	●	●	◎	◎
44		ヒオドシチョウ	×	△	×	×	×	×	×
45		ルリタテハ	×	△	▼	▼	▼	△	△
46		ゴマダラチョウ	×	×	△	△	△	×	△
47		キタテハ	×	×	○	▼	○	▼	▼
48		ヒメアカタテハ	×	×	×	△	×	△	×
49	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△	▼	○	▼	△
50	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×	×	△	×	×

凡例 ×：なし △：1～3 頭 ▼：4～10 頭 ○：11～30 頭 ◎：31～50 頭 ●：51 頭以上

なお、2020 年も、調査とは別に、アカシジミ、クロコノマチョウ、アサギマダラの確認情報がありました。2020 年の鷹取山では、前年の

台風の影響で、林地や草地などの連続性のあった植生の各所にギャップが生じ、さらに、ナラ枯れのおそれがある樹も目立つようになりました

た。毎年の蝶類調査を継続することによって、環境の変化による蝶類への影響も把握できる可能性があります。

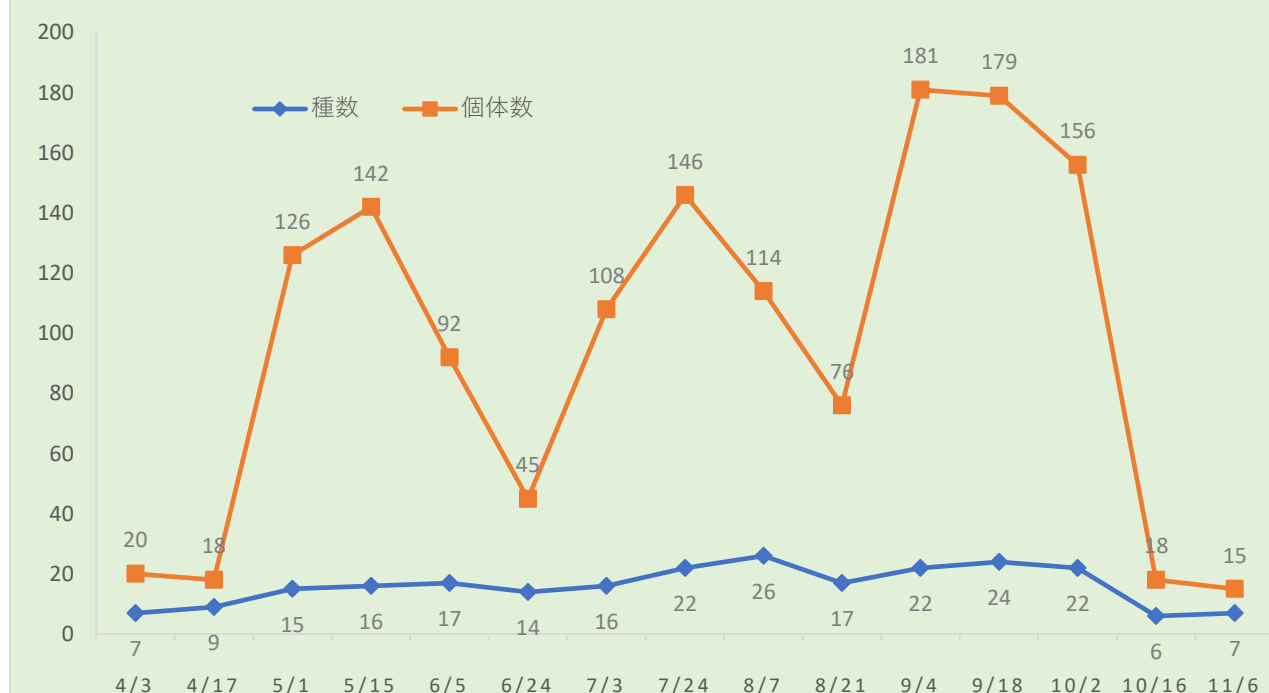
3. その他

蝶類調査では、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種を観察することもあるかもしれませんが。前述の博物館報告書による減少種のうち、鷹取山自然観察会で7年間に記録されたものは、キアゲハ、ミズイロオナガシジミ、オ

オミドリシジミ、イチモンジチョウ、ジャノメチョウ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、ヒオドシチョウの8種になります。調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくことによって、鷹取山周辺の蝶の生息状況がはっきりしてくると思います。

2020年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）
本多久男、中村紀雄、金子龍次、伊沢昭司、
市川寛、三科清高（順不同、敬称略）

種数・個体数の推移2020年



モニ1000里地調査について（注意事項）

モニタリングサイト1000里地調査（以下モニ1000という）は、日本の様々な生態系の動態を100年の長期にわたりモニタリングすることでその変化をいち早く捉え、生態系及び生物多様性の保全施策につなげることを目的とした環境省の事業です。現在、調査は環境省と日本自然保護協会（以下NACS-J）が全国約220ヶ所の一般サイトで、市民を主体とした調査を行っています。神奈川県では23ヶ所、横須賀市では2ヶ所で行われています。

調査項目は、植物相、鳥類、水環境、中・大型ほ乳類、カヤネズミ、カエル類、蝶類、ホタル類、人為的インパクト（相関植生図）の9つの項目で、現在は第4期調査として（2018～2022年度）で5年に1度サイトを更新します。

鷹取山自然観察会では、第3期調査の途中から参加し、会員有志で植物相、蝶類、鳥類の3項目の調査を行っています。調査に参加される方は次の注意事項を守り、楽しく調査していただくようお願いします。

注意事項

1. 調査に当たっては、植物相、蝶類、鳥類の各調査マニュアルを必ずご覧ください。調査マニュアルはNACS-Jのweb「モニタリング1000里地調査：マニュアル・調査票」を検索ください。
2. 調査の実施に当たっては、マナーを守り、公園管理者、民地地権者、ハイカーなど迷惑のかかることを行わない。また、調査では、モニ1000の腕章を必ず着けること。
3. 調査員は、ケガなどしないよう服装、靴などに留

意するとともに体調に十分注意してください。

万一、調査中にケガなどした場合は、モニ 1000 傷害保険の手続きをとるので連絡担当者へ報告すること。参加される方は傷害保険に必ず加入してください。

4. 調査日は連絡担当者が指定した日に行います。

(1) 植物相調査 通年第 2 金曜日

(2) 蝶類調査 4~11 月の間第 1、3 金曜日

(3) 鳥類調査 越冬期として 12~3 月は原則第 1、3 金曜日、繁殖期として 5 月 6 月の第 4 金曜日、6 月第 2 火曜日

雨天の場合は次の日曜日に順延、更に水曜日に順延する。

5. 調査データの公表は、環境省などへの許可は必要としないが、発表により貴重種、絶滅危惧種などが盗掘に合う恐れなどあるため慎重に行うこと。原則として行政機関等外部への公表は鷹取山自然観察会として行う。

6. 調査データは、年 2 回 NACS-J へ提供する。また、年 1 回調査員名簿を提出する。

前期 1~7 月分 8 月末提出

後期 8~12 月分 翌 1 月末提出

7. 調査員は貴重種などの保護のため、調査で知り得たラン科、ユリ科などの調査結果を、第三者に口外しないよう注意すること。また、植物保護のため自然観察会では貴重種などの紹介はしないよう注意すること。なお、調査などで知り得たデータは会員で共有してください。

8. 各調査では、NACS-J との連絡係、同定係を配置し、記録係は持ち回りで行います。

植物相調査（連絡係）本多（同定係）金子、小池

（記録係）持ち回り

蝶類調査（連絡係）本多（同定係）三科

（記録係）持ち回り

鳥類調査（連絡係）本多（同定係）本多

（記録係）持ち回り

9. 調査は、鷹取山自然観察会会員で行う。ただし、会員の技術向上を図るため専門家を招待することもできる。

10. 2021.2.1 変更

第 12 回「関東水と緑のネットワーク」の認定式

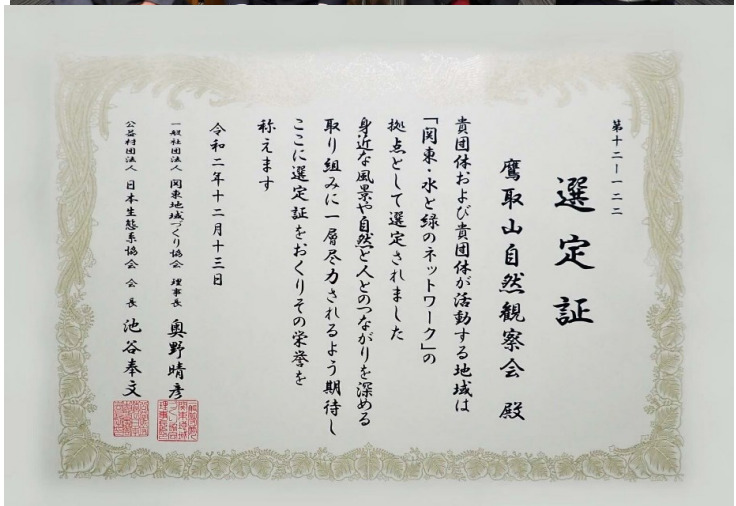
前号において一般社団法人関東地域づくり協会と公益財団法人日本生態系協会が主催する「関東・水と緑のネットワーク」に選定されたことを報告しました。

令和 2 年 12 月 13 日(日) 東京秋葉原において関東の 1 都 7 県から選定された 6 団体に認定証が授与されました。授与式ののち活動発表がありましたので報告します。

例年であれば、認定式と同時に過去に認定された団体との交流会などが予定されていましたが、コロナ禍にあって、当日の発表会などは YouTube によりリモートで配信されました。

今年の認定団体は以下の通りです。

- ①丘陵ホテルを守る会（埼玉県東松山市）、
- ②鷹取山自然観察会（神奈川県横須賀市）、
- ③坪井湿地を復活する会（千葉県船橋市）、
- ④社会福祉法人砂原母の会 そあ保育園（東京都葛飾区）、
- ⑤特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会（神奈川県鎌倉市）、
- ⑥群馬県立藤岡北高等学校（群馬県藤岡市）



活動団体は、長年にわたり自然保護に取り組んでいる団体であり、大変参考となりました。

その内、そあ保育園では園内にビオトープにより「自然から学ぶ」という理念をもとに保育をしています

ます。藤岡北高等学校では環境土木科の生徒を中心に、藤岡市に生息する希少種ヤリタナゴ観察、保護活動を行っています。保育園、学校での環境教育に熱心に取り組んでいることに感銘しました。

看板及びリーフレットの作成～「関東水と緑のネットワーク」の助成事業～

今年度「関東水と緑のネットワーク」の助成金の一部で鷹取山の自然保護のため「鷹取山の自然を大切に」のリーフレットを作成しました。また、公園内に「鷹取山の自然を守るマナー」の看板を設置しました。リーフレットおよび看板の設置に当たっては横須賀市公園管理課及び自然環境共生課と協議し、制作しました。リーフレットは自然観察会などで配布するほか、鷹取山公園にチラシケースを設置し、地元住民および公園を訪れる方に周知していきます。

リーフレットでは、鷹取山のマナーとして次のことをお願いしています。詳細はリーフレットを是非ご覧ください。

草木、鳥、昆虫など大切に
園芸種を持ち込まない
野草の採取と樹木の伐採
ごみを捨てない・火気に注意
民地の緑地に感謝と配慮を

鷹取山には多くの植物相、野鳥、昆虫などがみられる場所です。いつまでも鷹取山の自然を守るため

に、活動していきましょう。

また、助成金の一部で購入した消耗品（焼杭、杭打用ハンマー、鋸など）を用いて、貴重種の保護を目的とした保護柵の設置ができました。保護柵は今年度行った植樹した場所、展望台に至る階段付近に生えるセンボンヤリの保護のため行いました。そのほか、以前、植物相保護のためにマダケの杭が腐食したため、新たな杭打ち、甲虫ビオトープなどの補修など行いました。



写真1 看板の設置



写真2 リーフレットの作成



藪から幹 シュロの話

2月26日草刈り作業日のことでした。藪を覆っているアオキなどの雑木を取り払っていたら、現れた地面に密生して生えていたのはシュロの幼木、2～3年の10～20cmで双葉のような幼木(これをノシュロともいうそうです)でした。見上げるとその上に5mほどのシュロの大木が立っていました。ここから種が落ちて発芽したのです。このままにはできないので、一面に生えている幼木を雑草を抜くように30分、ほぼ抜き終えることができ、抜いた幼木は山になりました。抜かずにいたら、ここはシュロの密林になったかもしれません。シュロは、日本に生育する唯一のヤシ科の樹木です。ヤシ科は南国の木であるので、昔は(多分昭和の初め頃)、関東以西でないと発芽生育はできないといわれていました。ところが今は温暖化の影響で、こんなに容易に発芽しています。さらに、東北でも実生から生育できるそうで、害樹に指定している自治体もあるそうです。鷹取山でも、特に浜見台方面に行くと多く林立しているのを見ることができます。

建設以来50年近くなる湘南鷹取団地を回ってみると、何軒かの庭にシュロが植栽されていて、どこも3本仕立てです(広い庭では5本仕立てを見ます)。当時は南国風でハイカラな雰囲気を出していたのですが、今は若い方が新築する家で植栽するのは皆無でしょう。シュロは、日本原産のワジュロと中国原産のトウジュロに区別でき、ワジュロは葉柄が長く先が垂れていて、トウジュロは小ぶりで葉柄が短く先までたっています。庭に植栽されているのは姿のいいトウジュロです。交雑した中間種のアイジュロもあり、これを区別するのは難しいそうです。藪にあったのはトウジュロのようで、不用なので切り倒すと、意外と簡単に切り倒すことができました(帰宅して調べると、硬いので切り倒しは業者に頼むことと書かれていました)。切り口を見ると、トウモロコシの茎の切り口のように、道管が外周に取り巻いているだけで年輪がありません。熱帯産の木なので、年輪ができないのでしょう。木本というより草本のようで、シュロは木ではなく幹だそうです。

シュロがお寺に植えてあるのは撞木(鐘を突く木)に使うためだと以前書いた(会報14号)ことがありましたが、シュロの表面の皮を利用するために昔から栽培されてきました。特に和歌山県の野上谷が古くからの産地として有名です。シュロ皮の製品



といえばシュロ縄ですが、私の子供のころは箒がありました。それに束子(たわし)です。ただし今使われている束子のほとんどはココヤシの果実ココナッツの果皮の繊維ココファイバーを原料としたパーム束子で、中国製で100均にあります。和歌山県海南市にある老舗の高田耕造商店の通販で調べると、国産棕櫚箒は17600円、これでは安い掃除機が買えます。さらに輸入中国産パーム束子は300円、国産棕櫚束子の最上級品は、なんと3630円でした。そのほかにも、幹は磨いて床柱に、杭など木材としても使われ、種は漢方薬として使われています。私はメダカの産卵用に山から取ってきた皮を使っていて、卵を上手に採取することができます。葉も利用され、シュロは何一つ無駄のない木材であるそうです。

有用な物といえば、そこに生まれるのは弘法大師伝説で、シュロの種は弘法大師が中国から持ち帰ったという伝説があり、だから寺に植えられているのだといえます。ほかの理由として、シュロやソテツを眺めていると「色情を失う」といわれているからだそうです。それなら弘法大師が寺に植えるのはわかりますが、今の若い夫婦が庭に植えないのは安心します。今植えてある家は、夫が考えて植えたのなら、自分は見ないで妻に見せる作戦(その逆もありますね)なのかもしれません。植えてある家を訪ねて、考えと効果のほどを聞きたい気がします。もちろん我が家にはありません。山を歩くときは、あまり眺めないように気を付けましょう(笑)。

(市川 實)

モニ 1000 蝶類調査振り返り 1

鷹取山におけるモニ 1000 蝶類調査により、2016 年から 2020 年までの 5 年間の定量データが蓄積されています。毎年の報告とは別の側面に注目しながら、5 年間の調査結果を振り返ってみます。

蝶は、昼間活動する目立つ昆虫であり、また、蟬などとは異なり、卵から成虫になるまでの期間が短く、食草や吸蜜など植物に依存するため、植生などの環境の変化を短期間で反映します。

鷹取山の植生の異なる 6 区間において観察された蝶成虫のデータをもとに、5 年間の個体数の推移、種数の推移について、グラフ化してみました。

図 1 を見ると、おおまかに、毎年、初夏、盛夏、秋の 3 つのピークが見られます。個体数は、蝶の餌資源などの環境容量を反映していると思われます。

図 2 を見ると、個体数は多い順に、A、B、F、C、D、E となります。

図 3 を見ると、種数についても、毎年、個体数と同様のピークが見られます。種数は、植物相を含めた環境の多様性を反映していると思われます。図 4 を見ると、種数は多い順に、A、B、F、C、D、E と、個体数と同じになりますが、違いは個体数ほど大きくありません。

3 つのピークや区間による違いは、調査をしていても感じるのですが、データにより確認することができました。A、B には草地、F には畑地があり、C、D、E は林間なので、観察される種構成が異なっていることも考慮しなければいけません。これについては、別の機会に、種別に振り返ってみたいと思います。

(三科 清高)

図 1 区間別記録個体数推移 (2016~2020)

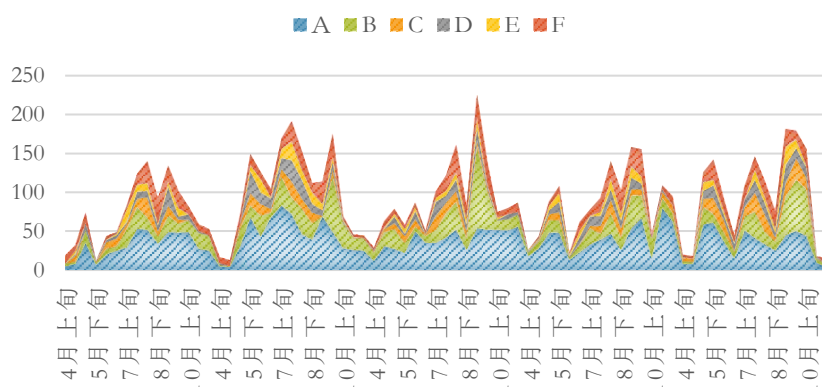


図 2 区間別記録個体数積上げ (2016~2020)

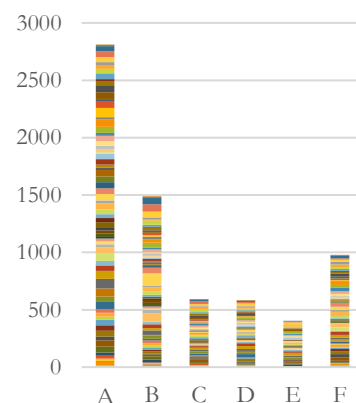


図 3 区間別記録種数推移 (2016~2020)

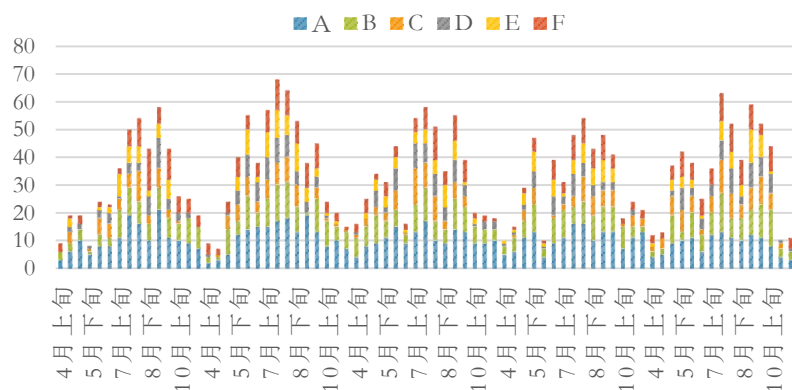
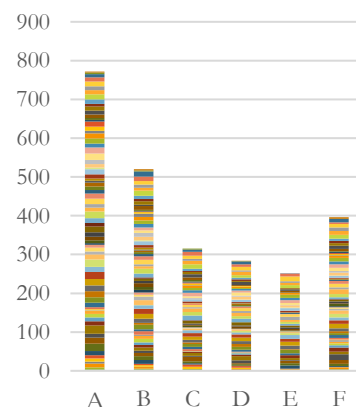


図 4 区間別記録種数積上げ (2016~2020)



鷹取山自然観察会のご案内

2021年度自然観察会の予定

鷹取山自然観察会では、季節ごとの様々な生き物を観察しています。日程は表のとおりです。初めての方もお気軽にご参加ください。

日 程	観察会のテーマ	集合場所
4月11日(日)	春に咲く花を見つけよう	京急田浦駅
5月 2日(日)	オトシブミを見つけよう	追浜駅
6月6日(日)	初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
7月11日(日)	蝶とその食草を探してみよう	追浜駅
8月 8日(日)	セミやバッタの観察をしてみよう	京急田浦駅
9月12日(日)	鷹取山の秋の七草は何でしょう	追浜駅
10月10日(日)	コオロギなど鳴く虫を探してみよう	追浜駅
11月14日(日)	野菊の違いを観察しよう	京急田浦駅
12月12日(日)	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅
1月 9日(日)	冬を越す樹木を観察しよう	追浜駅
2月13日(日)	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急田浦駅
3月13日(日)	早春の野草を探してみよう	追浜駅

注) 観察会のテーマは変更する場合があります。直近の情報ご確認ください。

◆集合場所：集合場所駅改札出口9時20分集合30分出発

観察会は12時まで現地解散小雨は決行。大雨の場合は翌週の日曜日に延期します。(延期の場合は朝7時までメールで連絡します。)

◆参加費：会員100円、非会員200円(保険料・資料代)小学生100円、未就学無料

◆定員：20人、先着順

◆申込方法：住所、氏名、電話番号(保険加入のため)メールアドレスを記入して、下記のアドレスまで申し込みください。小中学生は学年をお知らせください。

◆持ち物：歩きやすい服装、メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡及び双眼鏡

◆注意事項：コースの途中には坂道、足場の悪い場所もあるため滑りにくい靴で参加下さい。

◆持ち物：メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡、双眼鏡など

◆主 催：鷹取山自然観察会



《問い合わせ・申込み先》

メールアドレス takatori_0721@nifty.com

HP「鷹取山自然観察会」から申込できます。

電話：090(4177)0164